

中世益田・益田氏研究の可能性

●4月号より、中世益田講座 美都・匹見編
(全3回) を掲載します

【問い合わせ先】市文化財課 ☎ 31-0625

中世の益田や益田氏については、
矢富熊一郎氏の一連の研究や、『益田
家文書の語る中世の益田』（全三冊、
益田市教育委員会発行）など、多くの研
究成果が積み重ねられています（益田
市歴史文化研究センターのホームページ
に文献一覧を掲載しています）。それで
もなお、研究の余地は多く残されて
いますし、今後さらに研究が進むこ
とが期待されます。その大きな理由
としては、研究に使える資料がより
充実してきたことにあります。

実はこれまで、「益田家文書」や、
益田市域など島根県に残る関係古文
書の多くは活字化されていませんで
した。しかし、東京大学史料編纂所
の『大日本古文書 家わけ第二十二
益田家文書』の刊行が進み、益田市
も『中世益田・益田氏関係史料集』
の近いうちの刊行を予定しているな
ど、中世の益田や益田氏の研究に必
要な古文書の多くが、容易に利用で
きるようになりつつあります。

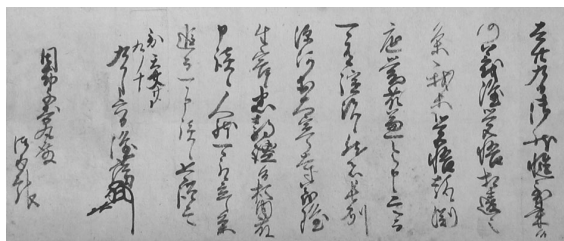
さらに中須東原遺跡をはじめとす
る益田市域の中世遺跡からは、豊富
な出土品と遺構が出てきています。
これらの発掘の成果だけでも注目さ
れるのですが、古文書からわかるこ
とと組み合わせることで、さらなる
研究の進展が期待されます。

このような新たな資料を駆使する
ことで、様々な新事実が明らかにな

ると考えられ、中世の益田や益田氏
についての研究は、大きな可能性を
秘めていると言えます。

ところで、歴史研究は決して大学
などの研究者のみのものではありません。
古文書や学術論文は確かに難
しく読みにくいですが、先人の営み
である歴史事実を知ることが純粋に
楽しく、まだ誰も明らかにしていな
い歴史事実を解明できれば、他にか
えがたい感動を得ることができます。

益田市教育委員会では今後、歴史
文化研究センターの事業の一環とし
て、最新の研究成果についての講演
会や、古文書の読み方を解説する講
座を開催する予定です。皆さんも中
世の益田や益田氏の研究に参加し、
取り組んでみませんか。



益田市所有「周布家文書」より陶隆房（晴賢）書状。陶晴
賢は主君大内義隆を滅ぼした、下剋上で有名な人物です。
この古文書からは陶晴賢の謀反に益田藤兼が協力してい
たことがわかります。こうした関連古文書を収集・調査
することが中世益田・益田氏研究に重要です。